

教員集計・分析

問1 子どもの実態について、あなたの考えをお聞かせください。

学習意欲の低下している子どもが増えている。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	80	415	404	40
%	8.5% (13.5%)	44.1% (45.7%)	43.0% (36.4%)	4.4% (4.4%)
中学校	128	269	152	9
%	22.9% (23.4%)	48.2% (50.1%)	27.2% (25.0%)	1.7% (1.5%)
全体	208	684	556	49
%	13.9% (17.1%)	45.7% (47.3%)	37.1% (32.3%)	3.3% (3.3%)

「そう思う」「ややそう思う」は、小学校で52.6%、中学校で71.1%であり、平成18年度の調査と同様に、中学校の教員は、子どもの学習意欲の低下をより強く感じている。

小学校・中学校とも、「そう思う」「ややそう思う」と答えた教員の割合は、平成18年度の調査より4.8ポイント減少し、その分「あまりそう思わない」と回答した教員が増えている。

参考 「そう思う」と回答した年代別の割合

年代	小学校	中学校	全体
20代	7.2% (7.6%)	30.0% (13.0%)	16.0% (9.6%)
30代	7.6% (11.1%)	21.0% (26.9%)	13.7% (17.8%)
40代	9.7% (15.7%)	22.6% (27.5%)	14.8% (19.8%)
50代	8.5% (16.5%)	22.0% (13.7%)	12.3% (15.7%)

「そう思う」の割合が最も低いのは、平成18年度調査と同様、小学校20代で7.2%である。

小学校では全ての年代で、中学校では30代・40代で、平成18年度調査よりも減少している。

平成18年度調査より増加し、最も高いのは、中学校20代の30.0%である。

校種別や年代層によって、学習意欲の低下についての意識がかなり違うことが数値に表れている。

読み、書き、計算などの基礎学力が十分身に付いていない子どもが増えている。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	77	450	385	25
%	8.2% (11.5%)	48.0% (48.3%)	41.1% (37.0%)	2.7% (3.3%)
中学校	116	292	141	8
%	20.8% (31.0%)	52.4% (47.8%)	25.3% (20.4%)	1.5% (0.7%)
全体	193	742	526	33
%	12.9% (18.6%)	49.7% (48.1%)	35.2% (30.9%)	2.2% (2.3%)

「そう思う」「ややそう思う」は、小学校で56.2%、中学校で73.2%と、いずれも基礎学力が十分身に付いていない子どもが増えているととらえている教員の割合は高い。

平成18年度の調査よりも、小学校では「そう思う」が3.3%、「ややそう思う」が0.3%とそれぞれ微減し、中学校では「ややそう思う」が1.6ポイント微増したものの、「そう思う」が10.2ポイント減少している。

学力の二極化の傾向が見られる。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	301	519	111	7
%	32.1% (28.8%)	55.3% (51.1%)	11.8% (18.8%)	0.8% (1.3%)
中学校	251	247	57	3
%	45.0% (42.8%)	44.3% (41.5%)	10.2% (15.2%)	0.5% (0.6%)
全体	552	766	168	10
%	36.9% (33.9%)	51.2% (47.6%)	11.2% (17.5%)	0.7% (1.0%)

「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は88.1%であり、平成18年度調査よりも6.6ポイント増加している。

校種別に見てみると、「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合が、中学校教員は平成18年度調査よりも5.0ポイント増加、小学校教員は7.5ポイント増加しており、小学校教員の方が、学力の二極化傾向をより強く感じている。

しかし、平成24年度末に教育委員会が現場教員のヒアリングを行って聞いた限りでは、二極化は深刻なものでなく、子どもたちの多様化の表れであると考えられる。教育委員会として、学習につまずいている子どもを支援する教育補助員の配置などに、引き続き取り組んでいきたい。

人間関係づくりやコミュニケーション能力の低下している子どもが増えている。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	370	474	94	8
%	39.1% (48.5%)	50.1% (43.7%)	9.9% (7.0%)	0.9% (0.7%)
中学校	293	226	39	1
%	52.4% (63.3%)	40.4% (30.9%)	7.0% (5.7%)	0.2% (0.2%)
全体	663	700	133	9
%	44.1% (53.9%)	46.5% (39.1%)	8.8% (6.5%)	0.6% (0.5%)

小学校・中学校ともに「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員は、平成18年度の調査と同様に、90%前後を占めている。

校種別に見てみると、「そう思う」と回答した教員の割合は、平成18年度の調査よりも、小学校で9.4ポイント、中学校で10.9ポイント、それぞれ減少している。

社会の基本的なルールを守り、善悪を判断する力が低下している。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	248	498	179	19
%	26.3% (36.0%)	52.7% (50.4%)	19.0% (11.9%)	2.0% (1.8%)
中学校	166	273	111	9
%	29.7% (39.5%)	48.8% (44.2%)	19.9% (15.4%)	1.6% (0.9%)
全体	414	771	290	28
%	27.5% (37.2%)	51.3% (48.1%)	19.3% (13.2%)	1.9% (1.5%)

全体で、78.8%の教員が、「そう思う」「ややそう思う」と回答している。小学校は79.0%、中学校は78.5%と、小学校・中学校の差はほとんど無い。

「そう思う」と回答した割合が、平成18年度調査よりも、小学校で9.7ポイント、中学校で9.8ポイント、それぞれ減少している。

ちょっとくらい嫌なことや苦しいことをがまんできない子どもが増えて
いる。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	340	501	96	7
%	36.0% (48.5%)	53.1% (45.7%)	10.2% (4.8%)	0.7% (0.9%)
中学校	251	264	39	4
%	45.0% (58.2%)	47.3% (37.0%)	7.0% (4.6%)	0.7% (0.2%)
全体	591	765	135	11
%	39.3% (52.0%)	50.9% (42.6%)	9.0% (4.7%)	0.7% (0.7%)

「そう思う」「ややそう思う」と回答している教員は、小学校で89.1%、中学校で92.3%、全体で90.2%であり、平成18年度調査の全体よりも4.4ポイント減少したものの、依然と高い割合を占めている。

「そう思う」と回答した割合は、小学校で12.5ポイント、中学校で13.2ポイント、全体では12.7ポイント、それぞれ減少している。

しつけや基本的な生活習慣が身に付いていない子どもが増えている。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	266	530	141	7
%	28.2% (41.4%)	56.1% (48.8%)	14.9% (9.3%)	0.8% (0.5%)
中学校	194	289	73	4
%	34.6% (45.3%)	51.6% (44.2%)	13.0% (9.9%)	0.8% (0.7%)
全体	460	819	214	11
%	30.6% (42.8%)	54.5% (47.1%)	14.2% (9.5%)	0.7% (0.6%)

小学校では84.3%、中学校では86.2%、全体では85.1%の教員が、「そう思う」「ややそう思う」と回答している。

「そう思う」と回答した教員は、小学校で13.2ポイント、中学校で10.7ポイント、全体では12.2ポイント、それぞれ減少している。

言われたことはやるが、自発的に何かしようとしないうちが増えている。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	213	510	204	14
%	22.6%	54.2%	21.7%	1.5%
中学校	200	286	69	4
%	35.8%	51.2%	12.3%	0.7%
全体	413	796	273	18
%	27.5%	53.1%	18.2%	1.2%

「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員は、小学校では76.8%、中学校では87.0%、全体では80.6%である。

「ややそう思う」と回答した教員は、小学校・中学校とも半数以上を占め、小学校の方が3.0%多い。その反面、「そう思う」と回答した教員は、中学校の方が13.2%、小学校よりも多い。中学校の方が、自発的に何かしようとしないうちが増えている傾向がうかがえる。

じっくり考え、計画的・継続的に物事に取り組む力が低下している。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	156	543	234	9
%	16.6%	57.6%	24.8%	1.0%
中学校	138	300	115	5
%	24.7%	53.8%	20.6%	0.9%
全体	294	843	349	14
%	19.6%	56.2%	23.3%	0.9%

小学校では74.2%、中学校では78.5%と、教員の約4分の3が、「そう思う」「ややそう思う」と回答している。

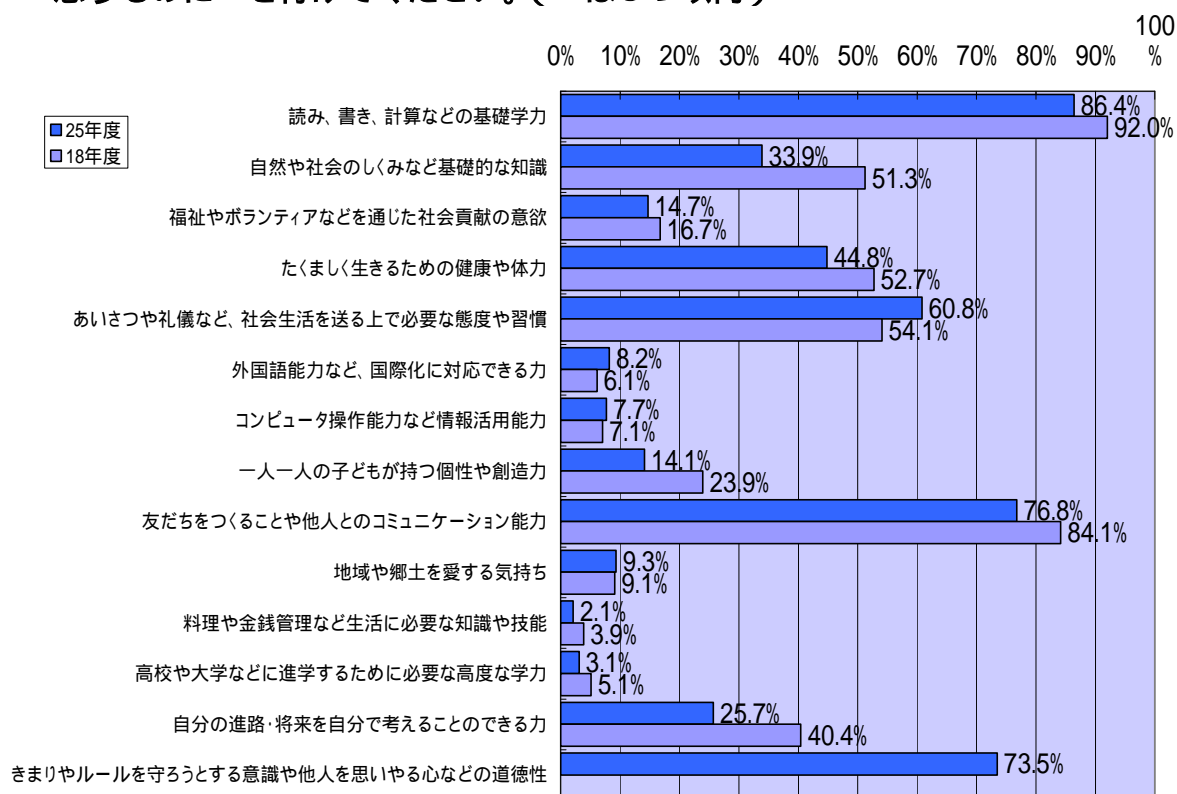
「そう思う」と回答している割合が、小学校よりも中学校の方が8.1%ポイント高く、じっくり考えたり、計画的・継続的に物事に取り組んだりする力が低下している子どもが増えている傾向がうかがえる。

自然との触れ合いやスポーツなど、多様な体験の乏しい子どもが増えている。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	204	479	242	16
%	21.7%	50.9%	25.7%	1.7%
中学校	137	295	113	14
%	24.5%	52.8%	20.2%	2.5%
全体	341	774	355	30
%	22.7%	51.6%	23.7%	2.0%

小学校・中学校とも、「そう思う」と回答した教員が2割以上、「ややそう思う」と回答した教員が5割以上、合計7割以上が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。

問2 学校ではどんな力を身に付けさせるべきだと思いますか。特に重要だと思うものに を付けてください。(は5つ以内)



「読み、書き、計算などの基礎学力」(86.4%)、「友だちをつくることや他人とのコミュニケーション能力」(76.8%)、「きまり・ルールを守ろうとする意識や他人を思いやる心などの道徳性」(73.5%)が上位3項目である。

この上位3項目のうち、「きまりやルールを守ろうとする意識や他人を思いやる心などの道徳性」は今回の調査で新たに加えた選択肢であるので比較できないが、「読み、書き、計算などの基礎学力」「友だちをつくることや他人とのコミュニケーション能力」は、多くの教員が選択している。

平成18年度の調査結果よりも10ポイント以上、割合が減少したものとして、「自然や社会のしくみなどの基礎的な知識」(51.3% 33.9%; 17.4ポイント減少)、「自分の進路・将来を自分で考えることのできる力」(40.4% 25.7%; 14.7ポイント減少)が挙げられる。

保護者への意識調査の問3(1)で同様の設問があり、その回答の上位3項目は教員と同じであるが、その順位は、「友だちをつくることや他人とのコミュニケーション能力」(80.2%)、「きまり・ルールを守ろうとする意識や他人を思いやる心などの道徳性」(80.1%)、「読み、書き、計算などの基礎学力」(72.3%)の順で、教員とは異なっている。

問3 家庭では、子どもにきちんとしつけをしていますか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	15	407	468	57
%	1.6% (2.0%)	43.0% (32.6%)	49.4% (56.1%)	6.0% (9.3%)
中学校	8	235	279	32
%	1.4% (2.0%)	42.4% (34.0%)	50.4% (55.1%)	5.8% (8.8%)
全体	23	642	747	89
%	1.5% (2.0%)	42.8% (33.1%)	49.8% (55.8%)	5.9% (9.1%)

「そう思う」「ややそう思う」は44.3%と、平成18年度の35.1%に比べ、約9ポイント増えている。しかし、依然として、家庭における子どもへのしつけが、十分でないと感じている教員も多い。

参考 年代別の割合の比較

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
20代	2.7% (3.9%)	54.6% (46.3%)	38.9% (45.9%)	3.8% (3.9%)
30代	1.4% (1.1%)	51.8% (40.6%)	41.3% (51.0%)	5.5% (7.3%)
40代	1.5% (1.7%)	43.7% (29.4%)	50.6% (59.6%)	4.2% (9.3%)
50代	1.3% (2.7%)	30.3% (17.6%)	59.6% (63.5%)	8.8% (16.1%)

小学校と中学校で大きな差異は見られないが、年代別では、大きな差が見られる。

「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合は、小中学校ともに20代教員が最も多く、約57%であり、各家庭における子どもへのしつけに対して、比較的肯定的な見方をする教員の割合が多い。この割合は年代を追うごとに減少し、50代になると「そう思う」「ややそう思う」は約31%と、20代とは26ポイントの差がある。

このことは、平成18年度と同じ傾向であると言える。しかし、どの年代も「ややそう思う」の数値が上昇しており、家庭における子どもへのしつけについて、前向きなとらえをしている教員が増えてきたと言える。

大切なことは、「家庭でのしつけ」にかかわる保護者と教員の意識の差を埋めるために、学校が家庭との信頼関係を築くとともに、家庭や保護者が果たすべき役割をきちんと伝えることではないかと考える。

問4 家庭の教育力が低下していると言われていますが、あなたはどう思いますか。

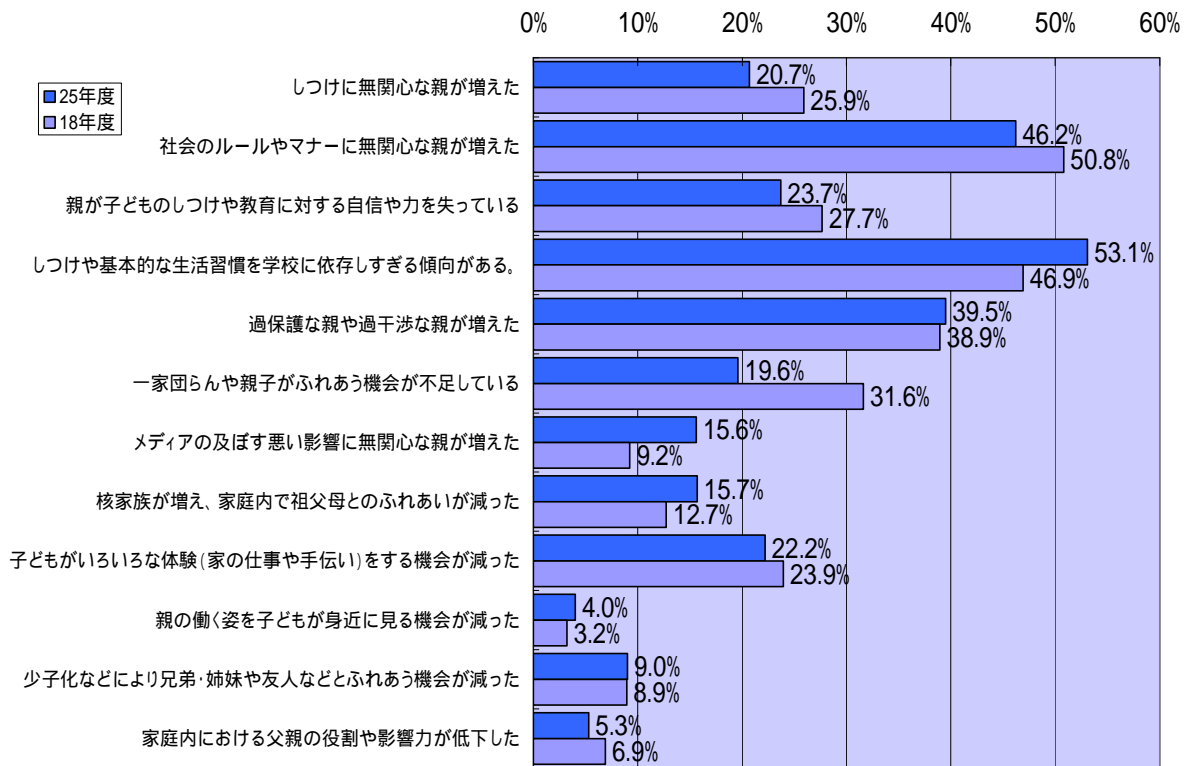
	かなり低下している	やや低下している	変化はない	やや向上している	かなり向上している
小学校	171	646	117	10	3
%	18.1% (27.6%)	68.2% (63.7%)	12.3% (8.2%)	1.1% (0.2%)	0.3% (0.2%)
中学校	137	355	58	3	1
%	24.7% (31.8%)	64.1% (59.1%)	10.5% (8.0%)	0.5% (0.5%)	0.2% (0.5%)
全体	308	1,001	175	13	4
%	20.5% (29.2%)	66.7% (62.0%)	11.7% (8.1%)	0.9% (0.3%)	0.3% (0.3%)

教員全体で、「かなり低下している」「やや低下している」を合計すると、87.2%であり、ほとんどの教員が、家庭の教育力はまだまだ低いと考えている。平成18年度と比較すると、「かなり低下している」が約9ポイントの減少に対し、「やや低下している」が約5ポイント、「変化はない」が約4ポイント増加している。また、保護者への意識調査では、「かなり低下している」が約4ポイントの減少、「やや低下している」が約1ポイントの減少、「変化はない」が約5ポイントの増加である。このことは、教員、保護者ともに、家庭の教育力の低下に対する意識に歯止めがかかりつつあることを表している。

「変化はない」は、小学校、中学校とも10%を超えているが、「やや向上している」「向上している」と捉えている教員はほとんどいない。

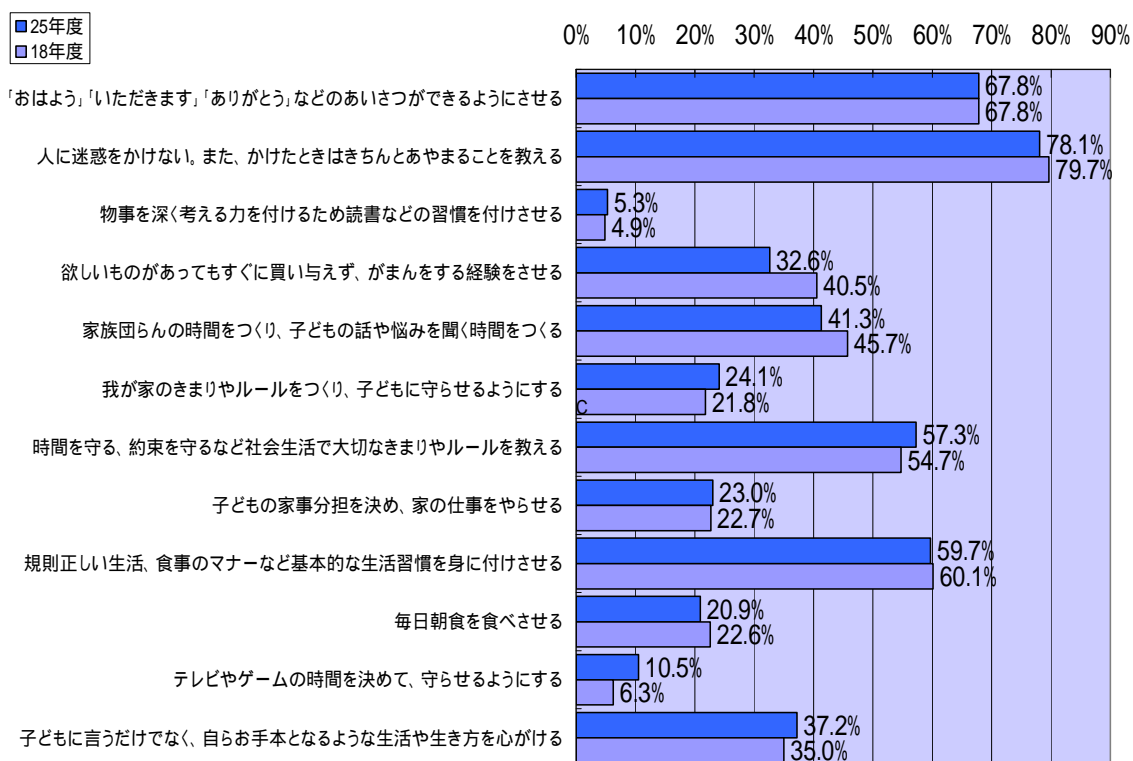
「かなり低下している」「低下している」と回答した人のみ

問5 低下していると回答した理由や低下の原因はなんだと思いますか。大きな原因だと思うものに をつけてください。(は3つ以内)



回答で最も多かったのは、「しつけや基本的な生活習慣を学校に依存しすぎる傾向がある」で、前回から約6ポイント上昇している。2位は、「社会のルールやマナーに無関心な親が増えた」で、前回より約4ポイント減少している。同じ質問に対する保護者の回答で最も多かったのは、「過保護な親や過干渉な親が増えた」で、唯一50%を超えているのに対し、教員意識調査では39.5%と10ポイント以上の開きがある。

問6 家庭教育で親が心がけるべきことについて、特に重要だと思うことにつけてください。(は5つ以内)



平成18年度の調査と25年度の調査では、上位5項目の順位は同じである。また、平成25年度の調査における世代別順位においても3位と4位とで入れ替わりがあるものの、上位5位の項目は同じである。家庭教育において重要だと思うことに世代間における大きな差異は見受けられない。

年代別で20ポイント以上の差がある項目は「子どもの家事分担を決め、家の仕事をやらせる」である。20代が最も少なく11.0%であるが、年代が上がるにつれ増加し、50代は32.6%となる。家庭で子どもにお手伝いをさせよう運動「家庭でワクワクお手伝い」等で、若い世代にも家事分担の大切さを知らせていく必要がある。

教員の割合が最も高い「人に迷惑をかけない。また、かけたときはきちんとあやまることを教える」について、保護者への意識調査では、「かなり心がけている」「ある程度心がけている」が99.2%である。また、「『おはよう』『いただきます』『ありがとう』などの挨拶ができるようにさせる」が同97.4%、「時間を守る、約束を守るなど社会生活で大切なきまりやルールを教える」が同97.3%である。教員・保護者ともに社会生活のルールを身に付けさせることへの意識が高い。

「物事を深く考える力を付けるために読書などの習慣を付けさせる」は教員・保護者とも割合が低い。物事を考える場面づくりや読書習慣を確立する大切さについて、学校から保護者に知らせていくことが大切である。

問7 子どもの基本的な生活習慣（起床、睡眠、食事など）の定着は学習意欲や成績に関係があるという調査結果がありますが、あなたの学校（クラス、授業）ではどうですか。

	かなり関係があると思う	ある程度関係があると思う	あまり関係がないと思う
小学校	565	370	6
%	60.0% (57.3%)	39.3% (41.7%)	0.7% (1.1%)
中学校	335	216	7
%	60.0% (62.6%)	38.7% (37.1%)	1.3% (0.4%)
全体	900	586	13
%	60.0% (59.2%)	39.1% (40.0%)	0.9% (0.8%)

「かなり関係があると思う」は、小学校、中学校ともに60.0%である。また、「ある程度関係があると思う」と合わせると、全体では99.1%となり、平成18年度の99.2%とほぼ同程度の数値である。ほとんどの教員が、基本的な生活習慣の定着と学力及び学習意欲等の関連があると見ている。

保護者への意識調査では、「かなり関係があると思う」は56.0%で、教員より4.0%低い、「ある程度関係があると思う」は41.4%であり、合わせるとほぼ教員と同じ数値である。基本的な生活習慣の定着については、保護者もその重要性を認識しており、今後も学校と家庭で連携・協力して指導を進めていくことが大切である。

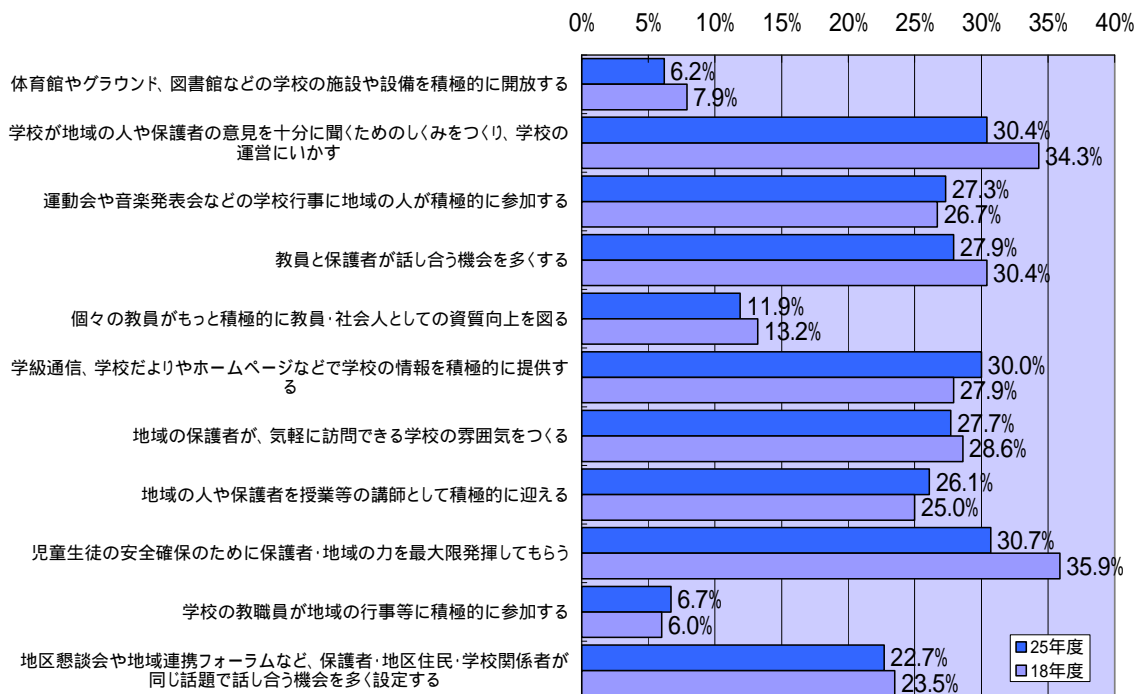
問8 あなたの学校区（地域）は、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分行われていると思いますか。

	そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない
小学校	181	649	100	8
%	19.3% (14.6%)	69.2% (68.2%)	10.7% (16.0%)	0.8% (1.2%)
中学校	84	367	97	8
%	15.1% (10.4%)	66.0% (68.5%)	19.6% (18.7%)	1.4% (1.5%)
全体	265	1,016	197	16
%	17.7% (13.1%)	68.0% (68.3%)	13.2% (17.3%)	1.1% (1.3%)

「そう思う」「どちらかというと思う」は、全体では85.7%であり、平成18年度と比較すると4.3%上昇している。「どちらかというと思わない」は、13.2%であり、平成18年度と比較すると、4.1ポイント減少している。小学校、中学校ともにおおむね連携・協力ができていると考えている教員が増えている。

「そう思う」「どちらかというと思う」と答えた小学校、中学校の教員の割合を比較すると、平成18年度は、3.9ポイント、平成25年度は7.4ポイント、それぞれ小学校が高くなっている。小学校、中学校ともに、教員は連携・協力は進んできていると感じていて、小学校で取組がより進んでいることがうかがえる。

問9 家庭・地域・学校がより連携・協力し、子どもたちの教育を進める上で、重要であると考える取組に つけてください。(は3つ以内)



連携を図る上で重要と考える取組の内容について、保護者側と教員側で意識のずれがある。保護者側は、「教員と保護者が話し合う機会を多くすること」が28.6%で第1位となっており、その次に「地域や保護者の意見を聞くためのしくみづくり」「積極的な学校開放」と続いている。

それに対し、教員側は「安全確保のために地域・保護者の力を発揮してもらう」が30.7%で1位、「地域・保護者の意見を聞くためのしくみづくり」が2位となり、「たよりやホームページによる学校の情報発信」が3位となっている。

保護者は、PTA懇談会など定期的で公式な関わりだけでなく、インフォーマルな関わりも大切であると考えている傾向がうかがえる。情報伝達においても、より直接的な方法を望んでいると考えられる。

各学校では、学校評議員制度や学校評価等を活用し、保護者や学校関係者の意見や要望を積極的に収集できる体制づくりを継続して推進していく必要がある。

その一方で、新たな意見・要望に対応するために、家庭・地域・学校の連携・協力のための具体的な取組を実施していくことが求められている。

問 10 学校での日々の教育実践や業務に自信をもって取り組んでいますか。

どの子にも分かる授業づくりについて

	性別	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	男性	84	226	48	5
	女性	61	385	126	5
	小計	145	611	174	10
		15.4%	65.0%	18.5%	1.1%
中学校	男性	76	189	48	0
	女性	34	165	42	2
	小計	110	354	90	2
		19.8%	63.7%	16.1%	0.4%
全体	男性	160	415	96	5
	女性	95	550	168	7
	合計	255	965	264	12
		17.0%	64.5%	17.6%	0.8%
参考	20代	男性 14.3%	男性 52.7%	男性 31.9%	男性 1.1%
		女性 5.3%	女性 51.1%	女性 41.5%	女性 2.1%
	30代	男性 15.4%	男性 65.1%	男性 18.3%	男性 1.2%
		女性 9.7%	女性 67.3%	女性 22.0%	女性 1.0%
	40代	男性 27.5%	男性 63.0%	男性 8.5%	男性 1.0%
		女性 13.1%	女性 69.6%	女性 16.6%	女性 0.7%
	50代	男性 30.4%	男性 60.8%	男性 8.8%	男性 0.0%
		女性 13.7%	女性 70.1%	女性 15.8%	女性 0.4%

【全体】

「どの子にも分かる授業づくり」に「自信をもって取り組んでいる」「やや取り組んでいる」の割合は81.5%である。

【学校種】

小学校は中学校に比べ、自信をもって取り組めていないとする割合が、3.1ポイント高い。

【その他】

年代・性別的に一番自信がもてていないのは、「20代の女性」で43.6%、次が「20代の男性」で33.0%、その次が「30代の女性」で23.0%である。一方、90%以上自信をもって取り組んでいるのは、「40代の男性」「50代の男性」である。

中学校の数値が小学校に比べ高いのは、教科の専門性を生かした授業が行われていると考えられるが、小学校の授業のように批評し合う場面が少なく他者と比べられないことも一因にあげられるのではないかと。

授業に対する思いは、年代や性差によって大きな差があることが分かった。特に若いとき、管理職や同僚、教育委員会からの丁寧な指導や支援が大切である。

子どもたちとの関わりについて

	性別	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	男性	118	214	28	3
	女性	125	397	59	1
	小計	243	611	87	4
		25.7%	64.7%	9.2%	0.4%
中学校	男性	100	168	45	0
	女性	60	163	22	0
	小計	160	331	67	0
		28.7%	59.3%	12.0%	0.0%
全体	男性	218	382	73	3
	女性	185	560	81	1
	合計	403	942	154	4
		26.8%	62.7%	10.2%	0.3%
参考	20代	男性 25.3%	男性 57.1%	男性 17.6%	男性 0.0%
		女性 12.8%	女性 69.1%	女性 18.1%	女性 0.0%
	30代	男性 32.5%	男性 56.2%	男性 10.1%	男性 1.2%
		女性 21.0%	女性 69.2%	女性 9.8%	女性 0.0%
	40代	男性 31.7%	男性 56.1%	男性 11.6%	男性 0.6%
		女性 24.4%	女性 66.0%	女性 9.3%	女性 0.3%
	50代	男性 35.2%	男性 56.8%	男性 7.9%	男性 0.0%
		女性 24.7%	女性 68.0%	女性 7.3%	女性 0.0%

【全体】

「子どもたちとの関わりについて」に「自信をもって取り組んでいる」「やや取り組んでいる」の割合は89.5%である。

【学校種】

中学校は小学校に比べ、自信をもって取り組めていないとする割合が、2.4ポイント高い。逆に、「自信がややない」を除く「自信がない」という人数は、小学校で4人、中学校は0人になっている。

【その他】

年代・性別的に一番自信がもてていないのは、「20代の女性」で18.1%、次が「20代の男性」で17.6%、その次が「40代の男性」で12.2%である。一方、90%以上自信をもって取り組んでいるのは、「30代の男性」「40代の女性」「50代の男性」「50代の女性」である。

全体的におおむね良好な数値であると考えられるが、「そう思わない」と答えた小学校では、「30代の男性」と「40代の男性」である。心のケアを含めた早めの対応が望まれる。

若いうちは自信がもてなかった子どもとの関わりであるが、年代が進むごとに自信がもてるようになっていくことが分かる。

部活動指導について（中学校のみ）

	性別	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
中学校 全体	男性	110	135	54	13
	女性	25	104	92	16
	合計	135	239	146	29
		24.5%	43.7%	26.5%	5.3%
参 考	20代	男性 42.2%	男性 42.2%	男性 11.1%	男性 0.5%
		女性 12.0%	女性 48.0%	女性 32.0%	女性 8.0%
	30代	男性 33.7%	男性 41.6%	男性 18.0%	男性 6.7%
		女性 13.0%	女性 37.7%	女性 44.1%	女性 5.2%
	40代	男性 30.9%	男性 49.5%	男性 16.5%	男性 3.1%
		女性 8.0%	女性 50.0%	女性 33.0%	女性 9.0%
	50代	男性 37.8%	男性 39.0%	男性 20.7%	男性 2.5%
		女性 10.4%	女性 41.7%	女性 43.8%	女性 4.1%

【全 体】

「部活動指導」について、「自信をもって取り組んでいる」「やや取り組んでいる」の割合は68.2%である。

【性 差】

部活動に自信をもてていない男性の平均は21.5%に対し、女性の平均は45.6%である。

【その他】

年代・性別的に一番自信が持てていないのは、「30代の女性」で49.3%、次が「50代の女性」で47.9%、その次が「40代の女性」で42.0%である。一方、自信をもって取り組んでいるのは、「20代の男性」「40代の男性」「50代の男性」と続く。

部活動指導については、性差によって数値が大きく違うことが明らかになった。部活動は、勝ち負けで評価されることが多く、指導に自信がない教員にとっては大きなストレスになっていることが考えられる。指導経験がない、又は、経験が浅いといった場合も同様のストレスを与えることが予想される。

「30代の男性」の「自信がもてない」とする割合は、「30代の女性」より高い。少数意見であるが、男性の中にも、日頃の部活指導に不安を抱えている職員がいることが分かる。

分掌業務について

	性別	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	男性	95	206	54	10
	女性	59	386	129	6
	小計	154	592	183	16
		16.3%	62.6%	19.4%	1.7%
中学校	男性	72	186	53	2
	女性	31	172	38	4
	小計	103	358	91	6
		19.8%	63.7%	16.2%	0.4%
全体	男性	167	392	107	12
	女性	90	558	167	10
	合計	257	950	274	22
		17.1%	63.2%	18.2%	1.5%
参考	20代	男性 10.9%	男性 47.3%	男性 37.4%	男性 4.4%
		女性 6.5%	女性 58.1%	女性 34.4%	女性 1.0%
	30代	男性 17.8%	男性 60.4%	男性 20.1%	男性 1.7%
		女性 7.7%	女性 68.9%	女性 20.9%	女性 2.5%
	40代	男性 30.2%	男性 57.7%	男性 10.0%	男性 2.1%
		女性 10.0%	女性 73.4%	女性 15.5%	女性 1.1%
	50代	男性 30.6%	男性 60.3%	男性 8.7%	男性 0.4%
		女性 16.3%	女性 63.4%	女性 19.9%	女性 0.4%

【全体】

「分掌業務」について、「自信をもって取り組んでいる」「やや取り組んでいる」の割合は80.3%である。

【学校種】

中学校は小学校に比べ、自信をもって取り組めていないとする割合が、4.5ポイント低い。また、「自信があまりない」を除く「自信がない」という人数は、小学校は16人で1.7%、中学校は6人で0.4%である。

【その他】

年代・性別的に一番自信をもてないと回答した割合は、「20代の男性」で41.8%、次が「20代の女性」で35.4%である。一方、自信をもって取り組んでいるのは、「50代の男性」「40代の男性」「40代の女性」の順である。

20代の職員の数値が高いのは、新採用が多く授業や学級指導に専念させるべく、与えられる分掌がそれほど多くないという現状からきていると思われる。年代が進むにつれ、自信をもって取り組む割合がおおむね高まっていくことも分かった。

上記の例外が一つある。「40代の女性」の「自信がない、ややない」という割合が16.6%に対し、「50代の女性」の割合が20.3%に増えている。40代のときの自分の分掌を客観的に比べてみての判断ではないかと思われる。

保護者との関わりについて

	性別	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない				
小学校	男性	81	220	59	5				
	女性	87	410	83	1				
	小計	168	630	142	6				
		17.8%	66.6%	15.0%	0.6%				
中学校	男性	64	188	59	2				
	女性	30	158	54	3				
	小計	94	346	113	5				
		16.8%	62.0%	20.3%	0.9%				
全体	男性	145	408	118	7				
	女性	117	568	137	4				
	合計	262	976	255	11				
		17.4%	64.9%	17.0%	0.7%				
参考	20代	男性	14.3%	男性	54.9%	男性	29.7%	男性	1.1%
		女性	9.6%	女性	54.2%	女性	33.0%	女性	3.2%
	30代	男性	17.8%	男性	58.6%	男性	22.4%	男性	1.2%
		女性	12.3%	女性	72.3%	女性	15.4%	女性	0.0%
	40代	男性	22.2%	男性	62.4%	男性	14.3%	男性	1.1%
		女性	14.1%	女性	72.4%	女性	13.1%	女性	0.4%
	50代	男性	26.2%	男性	61.6%	男性	11.4%	男性	0.8%
		女性	17.4%	女性	67.2%	女性	15.4%	女性	0.0%

【全体】

「保護者との関わり」について、「自信をもって取り組んでいる」「やや取り組んでいる」の割合は82.3%である。

【学校種】

中学校は小学校に比べ、自信をもって取り組めていないと回答した割合が、5.6ポイント高い。

【その他】

年代・性別的に一番自信がもてないのは、「20代の女性」で36.2%、次が「20代の男性」で30.8%、その次が「30代の男性」で23.6%である。

20代と50代は男性の方が自信をもっていると考えられるが、30代と40代は女性の方が自信をもって指導している。30代では、自信をもていない女性は15.4%に対し、男性は23.6%と、8.2ポイント高くなっている。

中学校で自信をもていないというのは、教科指導や学級指導だけでなく、部活指導や進路指導などでも保護者との丁寧な対応が必要になってくるからと考えられる。中堅になりつつある「30代の男性」が、保護者との関わりに十分対応できていないことが分かってきた。学校の重要な分掌を任せられることが増えることなどにより、学級の個々の子どもや家庭への指導・支援、日々の分かる授業へのエネルギーがやや弱まっていることが一つの要因ではないかと考えられる。

子どもたちの「熱中・感動体験」の充実について

	性別	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	男性	55	215	86	7
	女性	24	348	190	8
	小計	79 8.5%	563 60.3%	276 29.6%	15 1.6%
中学校	男性	30	164	106	11
	女性	13	123	97	11
	小計	43 7.7%	287 51.7%	203 36.6%	22 4.0%
全体	男性	85	379	192	18
	女性	37	471	287	19
	合計	122 8.2%	850 57.1%	479 32.2%	37 2.5%
参考	20代	男性 6.6%	男性 39.6%	男性 47.2%	男性 6.6%
		女性 2.2%	女性 41.9%	女性 49.5%	女性 6.4%
	30代	男性 11.2%	男性 49.1%	男性 35.5%	男性 4.2%
		女性 4.6%	女性 55.7%	女性 37.1%	女性 2.6%
	40代	男性 10.8%	男性 60.2%	男性 27.4%	男性 1.6%
		女性 5.2%	女性 59.8%	女性 32.5%	女性 2.5%
	50代	男性 17.5%	男性 64.9%	男性 16.7%	男性 0.9%
		女性 4.6%	女性 63.5%	女性 31.5%	女性 0.4%

【全体】

子どもたちの「熱中・感動体験」について、「自信をもって取り組んでいる」「やや取り組んでいる」と回答した割合は65.3%である。

【学校種】

中学校は小学校に比べ、自信をもって取り組めていない割合が、9.4ポイント高い。

【その他】

ほぼ、どの年代・性別でも、自信をもって取り組めていない割合が30%を超えている。「20代」で約50%、「30代」で約40%、「40代」で約30%である。「50代の男性」のみ17.6%と低く、おおむね自信をもって指導していることが分かる。

学校では、子どもが各種の体験活動に参加したとき、その後の成長した姿を期待する。しかし、その姿が見られなかった場合、自分たちの指導が十分ではなかったと判断するであろう。そのようなことが、この数値になって表れたのではないか。もちろん、参加してすぐに成果や成長として表れることもあるであろう。しかし、体験を重ねることによって、少しずつ成長するものもある。学校では、子どものわずかな伸びや成長に気付き、認め、根気よく指導していくことが必要になる。夢づくり教育について、そのねらいや意義を再確認することが重要である。

問 1 1 あなたは学校での日々の教育実践や業務によって多忙であると思いますか。

	性別	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
小学校	男性	179	143	36	6
	女性	363	199	20	1
	小計	542	342	56	7
		57.2%	36.1%	5.9%	0.7%
中学校	男性	180	107	21	5
	女性	148	85	11	1
	小計	328	192	32	6
		58.8%	34.4%	5.7%	1.1%
全 体	男性	359	250	57	11
	女性	511	284	31	2
	合計	870	534	88	13
		57.8%	35.5%	5.8%	0.9%
参 考	20代	男性 53.3%	男性 38.9%	男性 5.6%	男性 2.2%
		女性 43.5%	女性 46.7%	女性 8.7%	女性 1.1%
	30代	男性 59.4%	男性 32.9%	男性 5.9%	男性 1.8%
		女性 63.3%	女性 31.1%	女性 5.1%	女性 0.5%
	40代	男性 59.3%	男性 32.3%	男性 7.4%	男性 1.0%
		女性 68.3%	女性 30.0%	女性 1.7%	女性 0.0%
	50代	男性 43.0%	男性 43.0%	男性 12.3%	男性 1.7%
		女性 59.5%	女性 37.3%	女性 3.2%	女性 0.0%

【全 体】

教育実践や業務によって多忙であると思うかという問いに対して、93.3%の教員が、「そう思う」「ややそう思う」と答えている。

【学校種】

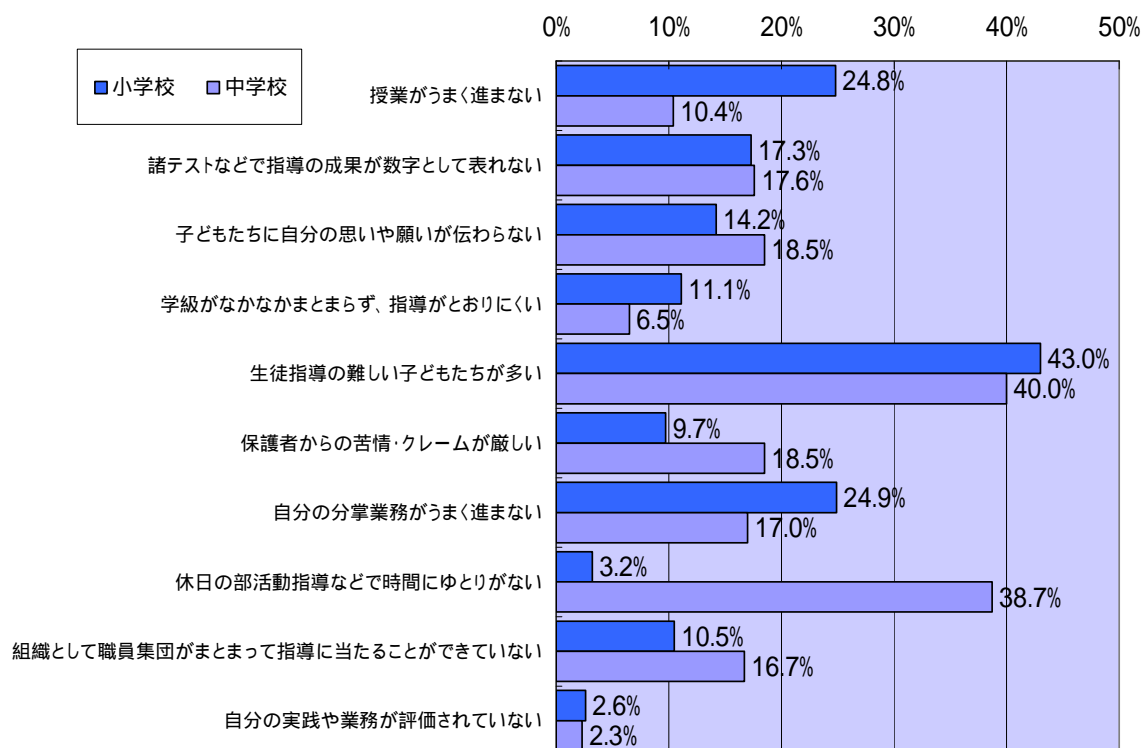
この問いに関しては、小学校と中学校の差はほとんどない。

【その他】

多忙と感じている割合は、「40代」が最も高く、次は「30代」となっている。性別では、女性の数値が高く（女性平均は96.0%、男性平均は90.0%）、特に「40代の女性」が98.3%、「50代の女性」が96.8%になっている。「40代の男性」は91.6%、「50代の男性」は86.0%であり、差が生じている。教員の業務として、本当にやるべきことと、そうでないことの取捨選択ができずにいるのではないか。仕事を抱え込み増やしていることがないか、自校の取組を見直して、思い切った業務の精選を図ることが大切である。

行政においても、教職員のやる気や笑顔が子どもの教育を支えていくことを再認識し、学校への負担を減らせないかなどの視点で、業務を見直す必要がある。

問 1 2 あなたが日々の教育実践や業務でどのようなことに困難を感じますか。
特に強く思うことに をつけてください。(は3つ以内)



日々の教育実践や業務で困難を感じることは、小中学校ともに「生徒指導の難しい子どもが多い」ことが最も高い割合を占め、40%以上である。

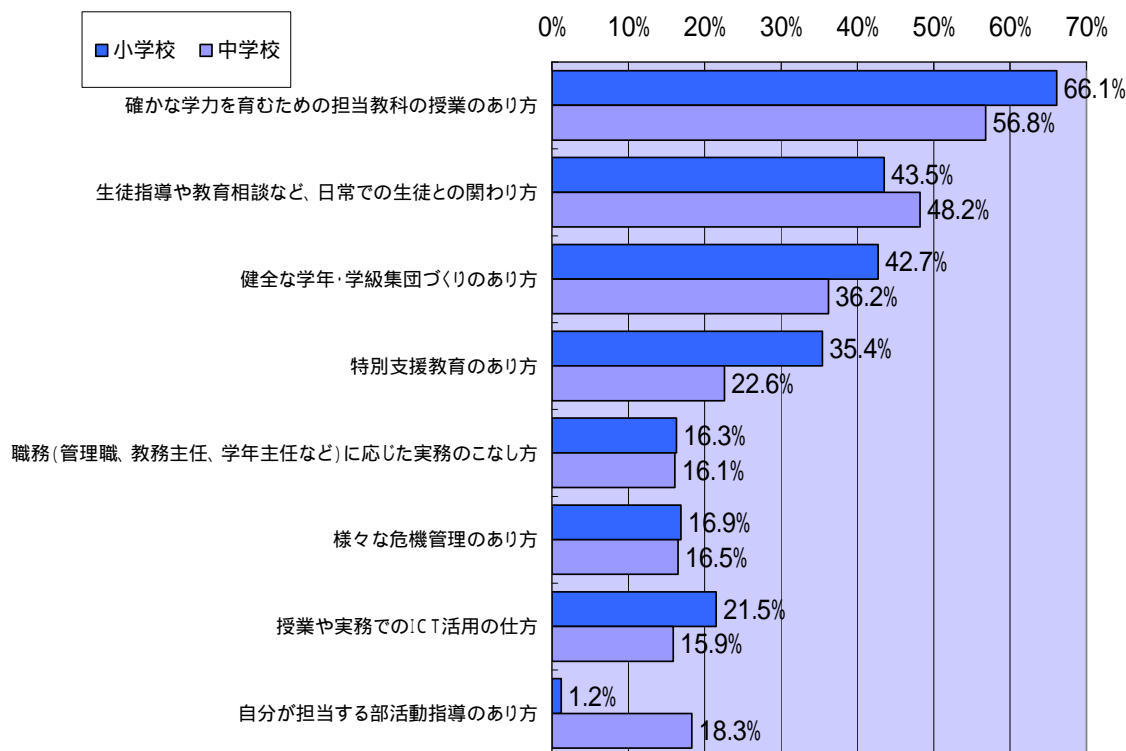
小学校教員は以下のことに困難を感じている。

- ・自分の分掌業務がうまく進まない(24.9%)
- ・授業がうまく進まない(24.8%)
- ・諸テストなどで指導の成果が数字として表れない(17.3%)

中学校教員は、以下のことに困難を感じている。

- ・休日の部活動指導などで時間にゆとりがない(38.7%)
- ・子どもたちに自分の思いや願いが伝わらない(18.5%)
- ・保護者からの苦情・クレームが厳しい(18.5%)

問 1 3 あなたが日々の教育実践や業務をとおして、研修を深めたいと思うことは何ですか。特に強く思うことに をつけてください。(は3つ以内)



日々の教育実践や業務で研修を深めたいと感じる上位4項目は、小中学校ともに以下の順となっている。特に確かな学力を育む授業のあり方はともに55%以上、生徒指導や教育相談に関する研修についてはともに40%以上と高い割合を示している。

- 確かな学力を育むための担当教科の授業のあり方
- 生徒指導や教育相談など、日常での生徒との関わり方
- 健全な学年・学級集団づくりのあり方
- 特別支援教育のあり方

特別支援教育に関しては、小学校では35.4%、中学校では22.6%と小学校の方が高くなっている。一方、部活動に関しては、小学校では1.2%、中学校では18.3%と中学校の方が高くなっている。

問14 長岡市が推進している「熱中！感動！夢づくり教育」について知っていますか。

	性別	名前も内容もだいたい知っている	名前も内容も少しは知っている	名前は知っているが、内容はよく知らない	名前も内容も知らない
小学校	男性	232	103	28	2
	女性	305	220	58	0
	小計	537	323	86	2
	%	56.6%	34.1%	9.1%	0.2%
中学校	男性	215	69	27	1
	女性	143	73	28	0
	小計	358	142	55	1
	%	64.4%	25.5%	9.9%	0.2%
全体	男性	447	172	55	3
	女性	448	293	86	0
	合計	895	465	141	3
	%	59.5%	30.9%	9.4%	0.2%

「名前も内容もだいたい知っている」と回答した割合が、小学校と中学校ともに8割に達しておらず、課題が見られる。特に20代と30代の小学校教員の認知度が低く、教育委員会として対策を講じる必要がある。

<参考> 「名前も内容もだいたい知っている」と回答した年代別の割合

	小学校	中学校	全体
20代	27.4%	50.7%	36.3%
30代	48.5%	61.2%	54.2%
40代	62.5%	66.1%	63.9%
50代	66.1%	72.9%	68.0%

問15 あなたが教育活動の中で、課題と考えていることや困っていることなど、なんでも結構です。自由に書いてください。

項 目	小学校教員	中学校教員
・教員の資質・指導力向上	3 2	5
・教員の多忙化解消	1 0 3	4 5
・家庭の教育力向上	1 2	5
・学校・家庭・地域の連携	2 1	5
・学校施設の整備・充実	3	3
・少人数クラスの編制	1 3	1
・家庭への経済的支援	0	2
・子どもの変化と対応	2 0	1 6
・教育施策の充実	2 3	1 2
・職場の雰囲気	1 1	1 0
・特別支援教育の充実	7	3 1